

科目名	がん看護学特論Ⅱ Topics in Oncology Nursing Ⅱ
授業形態	講義（レクチャーと討論）
標準履修年次	1年次
実施学期・曜時限等	秋AB学期 金曜5・6時限
実施場所	共同利用棟B 204
単位数	2単位
担当教員名	水野道代 Mizuno Michiyo 山下美智代 Yamashita Michiyo 牟田理恵子 Muta Rieko 非常勤講師：小原 泉、武田祐子、梅田 恵、吉田千文
ティーチングフェロー(TF)・ ティーチングアシスタント(TA)	
オフィスアワー等	随時(メールで予定を確認の上訪問すること)
授業の到達目標 (学習成果)	1 がん化学療法、遺伝性がん、がんに関連した痛み、病名・予後告知、退院調整に関連する事例を題材に、がん患者と家族が直面する問題について、アセスメントすることができる。 2 がん患者の意思決定過程や遺伝相談、症状緩和、終末期ケア、継続ケアに必要な倫理的配慮やコーディネーション・カウンセリングに関する知識・技術の活用方法について討議することができる。 3 がん患者における病名・予後告知、治療の選択、診断、治療に伴う援助および症状緩和について、専門看護師としての役割や機能を説明することができる。 4 自らの発言内容に対する質問とコメントを理解し、よりよいアセスメントや援助法を検討することができる。 5 がん患者における病名・予後告知、治療の選択、診断、治療に伴う援助および症状緩和に必要な知識を列挙し、具体的な援助法を検討することができる。
他の授業科目との関連	
履修条件	履修要件はないが、※はがん臨床指導者プログラムのeラーニングによる授業であるため、視聴に必要な手続きをとること。
授業概要	がん患者における病名・予後告知、治療の選択、診断、治療、種々の症状に伴う諸問題を的確にアセスメントし、包括的な支援を提供するための看護援助の方法を学ぶ。
キーワード	意思決定 Decision-making、家族看護 Family Nursing、遺伝カウンセリング Genetic counseling
授業計画	1(9月以降に提示)意思決定と看護援助① 2(9月以降に提示)意思決定と看護援助② 臨床試験及び治験コーディネータの意思決定支援における役割に関する講義を聴講した後、支援事例について討議する。(小原・水野) 3(9月以降に提示)意思決定と看護援助③ 4(9月以降に提示)意思決定と看護援助④ 討議事例を基に、意思決定に関する看護援助例を立案し、援助の妥当性について討議する。(水野) 5(9月以降に提示)診断と治療にまつわる患者・家族① 6(9月以降に提示)診断と治療にまつわる患者・家族② 遺伝性がんに関する基本的知識と、コーディネーション・カウンセリングに関する知識・技術の実際とその課題について検討する。(武田・山下) 7(9月以降に提示)診断と治療にまつわる患者・家族③ 8(9月以降に提示)診断と治療にまつわる患者・家族④ 遺伝性がん罹患した患者や家族、遺伝性がん罹患するリスクのある人が直面する問題と、看護支援方法について深く理解する。(山下) 9(9月以降に提示)トータルペインと症状緩和① 10(9月以降に提示)トータルペインと症状緩和② がん患者をトータルペインの視点から包括的にアセスメントする方法について理解する。(梅田・牟田)

	<p>11(9月以降に提示)トータルペインと症状緩和③ 12(9月以降に提示)トータルペインと症状緩和④ 緩和困難な症状をもつがん患者に関する事例を作成し、専門看護師として症状をアセスメントおよび緩和する方法について討議する。(牟田)</p> <p>13(9月以降に提示)病名・予後告知と終末期ケア①※ 14(9月以降に提示)病名・予後告知と終末期ケア②※ がん患者に対する病名・予後告知の現状について理解するとともに、終末期がん患者とその家族が直面する問題について学ぶ。(牟田)</p> <p>15(9月以降に提示)病名・予後告知と終末期ケア③ 16(9月以降に提示)病名・予後告知と終末期ケア④ がん患者に対する病名・予後告知のあり方について討議する。さらに、終末期がん患者と家族が直面する問題への援助方法について討議する。(牟田)</p> <p>17(9月以降に提示)がん患者への生活支援① 18(9月以降に提示)がん患者への生活支援② がん患者と家族への生活支援として、医療・福祉サービスを含めた退院調整の実際と課題について深く理解する。(吉田・山下)</p> <p>19(9月以降に提示)がん患者への生活支援③ 20(9月以降に提示)がん患者への生活支援④ がん患者と家族への生活支援として、退院調整における専門看護師の役割や機能について洞察する。(山下)</p>
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	講義(50%)、討議(50%) 講義の前に意思決定、家族看護、患者教育について教科書やレビュー論文を用いて調べた上で理解を深めて講義を受ける。また講義で得た知識を基に討議に必要な資料を作成して討議に臨むこと。
成績評価方法	講義(50%)と討議(50%)より構成される授業。 討議コマにおいて、行動目標の1と2を指導に従って大旨できればC以上(12-13点)と判断する。積極的に3、4も行っていると判断されればB以上(14-15点)と判定する。1~4については、発表と討論状況および各授業での作成資料を元に、理解度を判定する。行動目標の1~4について優れていると判断され、5を指導に従って大旨できると判断されればA以上(16-20点)と判定する。5種類の支援に関する授業コマのグループ毎に20点を配点し、その合計により評点する。
教材・参考文献・配布資料等	(教科書)指定しない。 (参考書)関連図書や資料に関する情報をその都度提示する。
その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等)	わからないことは、その場で質問し解決すること。徹底的に科学的、論理的、厳密な議論を行うこと。